2026年（令和8年）11月1日

すみれ通信 11月号

（第137号）

すみれ通信は、医療・介護に携わる方に発信しています

〒 251-0032
藤沢市片瀬339-1
藤沢市医師会館
在宅医療支援センター
TEL 0466-41-9980
FAX 0466-41-9981
✉ fuji-zaitaku@movie.ocn.ne.jp

第３回「在宅医療・介護連携」多職種研修会 報告

昨年度に開催した「在宅で療養されている高齢者の急変時の対応について考える」の研修会内容を受けて、今年度ACP を題材とした研修会を 2 回企画し、その 2 回目の研修会でした。

日 時：令和8年9月 17 日（木）19:00～20:45
場 所：藤沢市医師会館 2 階ホール
テーマ：～在宅高齢者の急変時の対応を多職種で考える～
ACP に関する情報を
いかに搬送先病院につなぎ、共有するか!
参加者：56 名 スタッフ 8 名

（実施内容）

参加者を所属先や職種を考慮し、8 グループに分けて下記の内容でグループワークを実施した。

①それぞれの職種が持つ ACP に関する、どのような情報を伝えると良いか
②なぜ伝わらないのか
③それぞれの職種が伝えるために何ができるのか



（頂いた感想）

・他職の現場の声を聞ける貴重な機会となり、改めて多職種の皆さんと一緒に考えることが出来ました。「多職種連携」と言われて意識は高まっているが具体的にどうしたらいいのかと皆さんが悩んでいるのもわかりました。
・在宅医療に関わる様々な専門職から、現場の具体的な意見を多く聞くことが出来たのは非常に有意義でした。
・医療と介護の連携は難しいが、いざという時に迷わないようにするためにも研修会で意見交換することは大事だと思った。





第４回在宅医療・介護連携多職種研修会のご案内
日 時：令和８年11月17日(火)18:45～20:30
場 所：藤沢市医師会館 ２階ホール
テーマ：多職種で考える「日常療養支援」「入退院支援」
～ロジックモデルを使って～

第３回市民公開講座のご案内
日 時：令和８年11月28日(土)10:00～11:30
場 所：藤沢市役所5階 5-1・2 会議室
テーマ：チームで支える在宅医療
～医療と介護がつなげる自分らしい暮らし～
講 師：湘南ホスピタル理事長・院長 木原明子 先生
居宅支援事業所ケアポート湘南管理者 武田真弓 氏

在宅医療の現場から No.13



山口クリニック
院長 山口 邦彦

「かかりつけ医が最後まで診る在宅医療の価値は？」

俗にいう団塊の世代が後期高齢者になり、これから更なる多死社会を迎えるにあたり、在宅支援診療所の在り方が転換点を迎えています。

往診に固定されていた家庭へ赴いて診療するという形から、1986 年に訪問診療という診療の概念が初めて出来てから、在宅医療は様々な形に変遷してきました。長年患者につき沿い、その家族事情や関係性をよく知った家庭医が、通院出来なくなった患者宅に赴いて診察をすることによって、「先生に死水をとってもらう」という日本人固有死生学の考えにも従する制度だったようにも感じます。しかし、こうした診療を取りまく環境も年々厳しさを増してきます。

午前・午後と外来診療を行う家庭医が一人で訪問診療をやっていくには、昼休みや診療終了後の夜間に限られてしまいます。まだ医師も社会的役割が少なく体力もあるうちは何とかなりますが、徐々にそうともいかなくなります。

そこで、医療機関同士が連携をしてお互いの患者を副主治医として診療したり、医療機関が医師数を増やして医師一人当たりの負担を減らしていく等の方法が取り入れられてきました。その為に外来診療の診療報酬が数十年ほとんど上がらない中、在宅医療の診療報酬を国は高めに設定しておりました。すると当然のことながら、在宅医療は儲かるという考えから軽症患者まで訪問診療へ回して稼ぐ医療機関が出てきてしまいます。今回の診療報酬改訂ではその部分にメスを入れたようですが、全く生産性のない書面上の事務処理に手間がかかるばかりで、患者の為にもならない、かつ医療レベル向上にも寄与しない愚改訂であるように写ってしまうものでした。

複数の医師を雇用しシームレスな訪問診療の形は、緊急事にも安定した対応を行うことができ、望ましいと感じる患者も多いことでしょう。しかし、同じ地域に住みながら長年患者を同じ地域の住民として見てきた医師が、その患者のそれまでの人生や価値観を理解した上で、療養する場所を変えてまでも最後まで診療を続けることにも代えがたい価値があると考えます。

自分が畳の上で（今はベッドですが）最後を迎えるのならば、面識のない医師に形だけの看取りをしてもらうのではなく、死後の時間が経っても構わないので、思い出を共有してきた医師を待ち看取ってもらいたい。国にはそのような考えがこの日本には存在しているということを考慮した制度を作って欲しいと思います。

最後に、長年医療を担ってきた末端の 1 馬力診療所をないがしろにする、今回のこの診療報酬改訂に対する意見を主張するため、神奈川県医師会の理事を辞し、日本医師会の理事となった磯崎哲夫先生に Yell を送らせて頂きます。